
幸せごっこ

たら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せごっこ

【Nコード】

N4495BA

【作者名】

たら

【あらすじ】

幸せごっこをしようと言われた。でもあいつの説明を聞く限りそれは幸せのお裾分けごっこだ。まあ何でもいいけど…このモヤモヤは何なのだろう。 主二人が遊んでるお話

休みの日は必ずと言っていいほど椎「しい」は家に来る。俺に用事があるわけではないらしい。高校生なんだから友達と遊びに行ったりしないのだろうか。今日も椎は家に来た。この間まで風邪をひいていたみたいだがすっかり回復したようだった。

「うー暇ー…」

「お前友達と遊んだりしないの？」

「私、約束して決められた事するの、あんまり好きじゃない。里穂ちゃんはそれ知ってるから…」

「ふーん。俺の家は約束したかのように毎週来るのに？」

「…迷惑？」

「全然？」

「ふう…水人「みずと」君の家に来る約束はしてないから…急に行けなくなっちゃっても大丈夫でしょ。気軽に来れる場所だし落ち着くから。でも…」

「でも？」「水人君に彼女さんとかできちゃったら状況は変わるけどね。それまでの間だよ」

お茶吹く所だった。危ない危ない…ってか…そっか。高校生なんだからそんな話が出てても不思議じゃないんだよな。

「お前こそ。彼氏出来たら来れないじゃん」

「はわっ！？な、なななな何を言い出すんですか！無い、無い無い無い！」

ふーっと息を吐きながら手で顔をあおいでいる。この反応は好きな人でもいるんだろうか。

まあ、それはともかくお菓子でも食べようかな。冷蔵庫に何か入ってるといいんだけど。

「ん？水人君どちらへ？」

「ちょっとそこまで」

「メイちゃんですか」

「冷蔵庫の中見てくる来たきやどーぞ？」

「お菓子ー！行くー！」

目をキラキラさせた後笑顔でついてきた。やっぱり女の子なんだなとこういう時だけ実感する。

「あ、フルーツケーキ。椎、食べれる？」

「うん！フルーツケーキ好きー！…あ」

「うん？」

「幸せごっこしよう！」

「何それ」

唐突だな。

「あのね、どこか忘れちゃったけど外国で結婚式に出席できなかつた人には幸せのお裾分けとしてウェディングケーキの欠片を送るんだって。そのケーキがフルーツケーキなの」

「で？」

「私のケーキの欠片を水人君にあげるのー」

「へえー」

よくわからん。皿を出して二人で部屋に戻った。

「じゃあいくよー！」

「はいよ」

「ピンポン！ピンポン！」

チャイムの音を真似る椎。

「はい。どちら様ですか？」

「お届け物です！」

「ガチャ。…お前は郵便配達の人なのか？」

「あれ…どうしよう…うーん…本人が届けに来たことにするー！」

「わかった…あ、椎さん。いらっしやい」

「こんにちは。あのですね、先日の私の結婚式…浅川さんはお見えになれなかったので、これどうぞ」

あれ、これ椎が誰かと結婚したって設定になるのか。何だ、このモヤモヤ感は。

「あ、ありがとうございます。いただきますね」
取り敢えず受け取ったケーキを食べた。

「終わりー楽しかったー！」
まあ本人は楽しんだようだ。

「次は交代だよー。ではよーい、アクション！」
俺の番もあるのか。

「ピンポン」

「はいはーい！今行きますよー。ガチャ。あれ、浅川さん？」

「あー、柏「かしわ」さん、こんにちは」

「こんにちは」

「これ、この間の俺の結婚式の…柏さん来れませんでしたよね、お裾分けです」

「ありがとうございます」

あれ…？さっきまで楽しそうだったのに…

「はいカーツト！」

椎は片手を勢い良く挙げて終わらせた。

「んー…なんか…水人君の番の時何ともいえない気分になった…」

「あーわかる…俺もお前の番の時なった」

「もうやめよっか。普通に食べよう」

「だな」

「今だって十分幸せだもん。フルーツケーキおいしい！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4495ba/>

幸せごっこ

2012年1月12日01時57分発行